

図書便り

男女共同参画センター“いこ～る”プラス
(JR長岡京駅直結長岡京市立総合交流センター6F)は、男女共同参画に関する約1,600冊の図書を貸出しています。ぜひご利用ください!



特集 パープル&オレンジリボンプロジェクト2021



新着!

11/9講演会
講師の本

DV被害からの離脱・回復を支援する 被害者の「語り」にみる経験のプロセス

増井香名子/著

ミネルヴァ書房/刊

DV被害者は、どのように被害から離脱・回復し「新たな生活」を構築していくのか。その過程には被害者の持つ力強さの側面と他者の存在が大きく存在する。当事者の視点からDVの実態を明らかにし、具体的かつ実践的な支援のあり方を考察。

新着!

トラウマインフォームドケア “問題行動”を捉えなおす援助の視点

野坂祐子/著

日本評論社/刊

支援者が会える“問題行動”の背景には、トラウマという「こころのケガ」があるかもしれない。トラウマや逆境の多くは本人が語らない(語る事ができない)ため周囲に気づかれにくい。その心理を理解しながら関わるアプローチを紹介。

新着!

家族と国家は共謀する サバイバルからレジスタンスへ

信田さよ子/著

KADOKAWA/角川新書/刊

国家の暴力と家族の暴力は構造的に相似形。個人的と見える出来事の背景に、国家や政治の意図を読み解く必要がある。私的体験が国家の暴力(戦争と政治)と根底でつながっているとしたら…。40年以上に及びカウンセラー経験から新概念を伝える。

ドメスティック・バイオレンス

小西聖子/著

白水社/刊

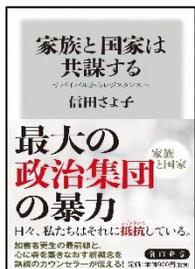
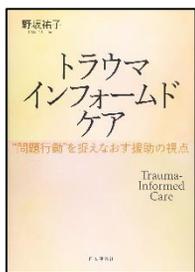
DVによる暴力とその心理が目に見えるようになってきたのは、ジェンダーによる差別が明らかにされ、女性が発言できるようになったからである。二人でいることの不安と恐怖、ジェンダーがもたらす密室の悲劇を心理学、精神保健の領域から説明し考察した。

STAND 立ち上がる選択

大藪順子/著

いのちのことは社フォレストブックス/刊

思いもよらぬ出来事が、思いもよらぬ出発になる。レイプ被害から立ち上がり、全米で性暴力被害者の写真プロジェクトを展開した日本人。計り知れない恐怖、悲しみ、憎しみを乗り越え、性暴力被害者たちの声を全米に伝える働きをするまでを綴った手記。



新着!

子どもを守る言葉「同意」って何？ YES、NOは自分が決める！

レイチェル・ブライアン/作
中井はるの/訳
集英社/刊

「暴力やいじめから自分を守り、人を傷つけない」そんな方法がこの本にある。自分の心と体は、自分のものである。自分と他人を区切るバウンダリー（境界線）があることに気づき、「同意」の重要性と実践法を、子どもにもわかりやすく紹介。

子どもによる 子どものための「子どもの権利条約」

小口尚子・福岡鮎美/文
小学館/刊

本書は、1994年アムネスティ・インターナショナル日本支部主催のコンテストで最優秀賞を受賞した作品をまとめたもので、「むずかしい条約文を子どもにも分かるように」と中学生が自分たちの言葉で「子ども権利条約」を訳している。

「ケータイ・ネット時代」の子育て論 時代の波に流されない力

尾木直樹/著
新日本出版社/刊

ケータイによるいじめなど親からの教育相談を取り上げて、Q&A形式で解説。また、ケータイやネットが子どもの人間関係をどのように変質させているか、家族関係にいかにか新たな困難を生じさせているかを説いている。

AV出演を強要された彼女たち

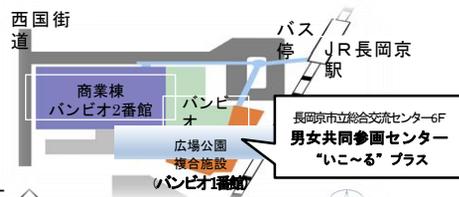
宮本節子/著
筑摩書房/刊

モデルにスカウトされ、いざ撮影となって現場に行ってみたらAVだった。「AV出演を強要された」そこから逃れられない女性たちの生の声を聞き支援する中で見えてきた実態を報告。そこには契約というビジネスを装いながら性犯罪といえる実態があった。

子どもをいじめるな

梶山寿子/著
文藝春秋/刊

父親が母親を日常的に殴るのを見て育ったり虐待を受けて育った子どもたちは、心に深い傷を負っている。なぜ大人が子どもを虐待するのか。いじめられる子どもたちの精一杯の叫びをインタビューを通して明らかにする。



情報コーナーの利用について

貸出：1人2冊まで、2週間（延長可）
対象：長岡京市在住・在勤・在学の人
※図書の出しには「情報利用者カード」の登録が必要です。カードの登録には、運転免許証など、本人確認が出来るものをお持ちください。

◇ 編集・発行 ◇

長岡京市男女共同参画センター“いこ〜る”プラス
〒617-0833
京都府長岡京市神足2丁目3番1号
長岡京市立総合交流センター6階
TEL 075-963-5501 FAX 075-963-5521
E-mail: danjo-c@city.nagaokakyo.lg.jp
開館時間：午前9時～午後5時（日・祝を除く）

